

Hawaii Wedding Story

一生に一度の大切なハワイ物語

憧れのハワイ挙式を『ファーストウェディング』で実現させた二人の、実話エピソードをお届けします。
第7回は挙式当日に“ファーストミート”を行った吉田さんの物語です。

Text: eri Photo: PAKKAI

Vol. 7

「永遠の2秒間」

数年前に友達と旅行で訪れたハワイ。次にハワイに来る時には結婚式で来よう、そう決めた。そんなハワイ旅行から帰ってしばらくして、彼と出会った。彼はとにかくポジティブで前向き。心配性のわたしとは正反対でいつも背中を押してくれるような人。そして家庭的で、家族のことをとても大切にしているところに惹かれた。わたしが結婚を意識するようになったのは自然な流れだった。プロポーズは付き合ってから1年半くらい経った頃。その言葉を聞いたらぼろぼろと涙が流れた。プロポーズの言葉でこんなに感動するなんて、やっぱり彼が言ってくれた言葉だかなんかだなんて思った。

＊

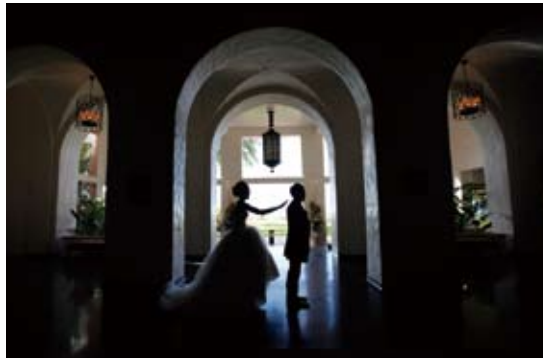
ハワイで結婚式という夢の実現に向けて話を聞きに行ったのは、ハワイ挙式専門のファーストウェディング。わからないことを質問しても、希望をいろいろ伝えても、一つひとつ親身に相談に乗ってくれた。担当のプランナーSさんも自分のことのように一緒に楽しんでくれているように、挙式までの相談は彼よりもSさんばかりにしていたくらいだ。

＊

僕はといえば、サロンに訪れたのは2回くらいで、まるで、彼女がこたわってプロデュースした結婚式に

招待されたような気分当日を迎えた。準備段階で覚えているのは、僕のタキシードを彼女が一生懸命選んでくれたこと。せっかくだらたらかっことよいてほしいし、スマートな姿で僕のお母さんを喜ばせてあげたいと言ってくれた彼女の気持ち、とても嬉しかった。

＊



ースしてくれたサブライズのひとつが「ファーストミート」。挙式当日まで彼女のウェディングドレス姿を見ずに、当日はじめて、ドレスアップした彼女を見られるというもの。挙式当日、僕は先に支度を終えて部屋を出た。ロイヤルハワイアン少しほの暗い廊下でドキドキしながら待っていた時の気持ちは、いまだ

も鮮明に覚えている。

＊

彼に先に部屋を出してもらい、指名でお願いしたヘアメイクのMさんとお支度。ドレスに着替え、この日のためにそろえたルブタンのパンプスを履き、彼の待つ待ち合わせ場所へ。ハワイの優しい風が吹くあの廊下で待っていてくれた彼。どんな反応をするのかな、喜んでくれるかなと思うと、不安な気持ちでいっぱいになってしまったけれど、Mさんの「大丈夫」というひとりでどれだけ救われたかわからない。

＊

少しずつ近づいて彼の後ろに立つたら、背中が大きく、頼もしく感じられて、「この人と結婚するんだ」と思っことこみ上げるものがあつた。泣きそうになるのをこらえて、彼の肩をトントンと叩いた。

＊

肩を叩かれて振り返ると、そこにはふわふわのドレスを身にまとった彼女。その時見た彼女は、今まで見たなかで一番美しいと思った。そして目が合つて見つめ合ったその瞬間、わずかに2秒くらいのその時間は、僕達二人にとって決して忘れることのできない「永遠の2秒間」となった。

＊

ホテル内で撮影をしていると、通りますぐりの人が祝福の声をかけてくれる。まるであの日はヒーローにもなった気分だった。そして、リム

ジンに乗り込んで『キャバルリー・バイ・ザ・シー教会』へ。この教会は木のぬくもりがあたたか、地元の人からずっと親しまれているところ。気が入って決めた。しかも海が見えるというのもハワイならではの。参列はお互いの家族だけの少人数の式。海外旅行が初めての僕の両親と兄、新婚旅行がハワイだったという彼女の両親とおばあちゃん、お互いの家族が心から喜んでくれた。海をバックにみんな撮った写真も大切な宝物だ。この日の写真を見直すと、みんな本当にいい顔をしている。今も家族で集まると、ハワイ挙式の話ばかりをしているんだ。

＊

先輩花嫁さんのブログや雑誌を熱心に研究するにつれ、やりたいこと、叶えたいこと、叶いばいになった。そのすべてを叶えることができたのは、やっぱり担当のSさんのおかげ。ヘアメイクもブーケも手作りの小物を使ったフォトツアーも、レセプションの装飾も……すべて実現できた。挙式の日感じたことは、私達が多くの人に支えられているんだということ。牧師さんの「ま、ころを大切にしなさい」という言葉も印象的だった。これからはまわりの人への感謝の気持ちを常に持って、夫婦として歩んでいきたい。挙式を経てハワイが大好きになった私達。来年の今、ころはハワイ旅行に行こうと約束して、旅行に向けて計画中。訪れる度に2人で新しい思い出を作っていくといいな。